

# バイデン政権の高压経済戦略の帰結は？

BNPパリバ証券チーフエコノミスト  
河野こうの  
龍りゅう太た郎ろう

- \* フランクリン・ルーズベルトの再来か
- \* レーガノミクスとは何だったのか
- \* 税の累進構造は復活するか
- \* 何が所得格差を生むのか
- \* 景気上向きでも利上げは難しい
- \* 日本の潜在成長率低迷の主因
- \* 非正規雇用の増加も追い打ちに
- \* 新陳代謝より雇用維持のジレンマ
- \* 内政志向のバイデン政権と中国について
- \* 日本では公的債務累増が消費を抑制



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）  
本日は、BNPパリバの河野さんにおいていただききました。

改めてご紹介の必要もないかと思いますが、1964年のお生まれで、横浜国大を出られた後、住友銀行、大和投資顧問を経て第一生命、その後現在のBNPパリバ証券にお勤めです。つしゃいます。

経済動向を語っていただく方は何人かこの倶楽部でもお呼びしておりますが、非常に明快に分析をされ、わかりやすくお話をいただけるということで、たいへんありがたく来ていただいているわけです。

今回は、バイデン政権が誕生してアメリカの経済戦略が次第に明確になりつつある中で、世

界経済がどこへ行くのか、そしてまた長期停滞が続いている日本がどうい問題を抱えているか、そういったあたりをお話していただけるということでございます。  
それでは河野さん、よろしくお願いいたします。

## フランクリン・ルーズベルトの再来か

**河野** 皆さんこんにちは。BNPパリバ証券の河野龍太郎です。本日は、日本の長期停滞の真因と米国の金融政策、アメリカの経済動向についてお話をします。前半部分がアメリカ、後半部分が日本です。

まずアメリカについてですが、もう皆さんご案内のとおり、最近アメリカの消費者物価が上